

【実践報告】

学部を超えて集い、議論する高年次教養セミナー

2020年度を振り返る

清島 絵利子

岐阜大学教育推進・学生支援機構

要旨

学部の3～4年生を対象とした全学共通教育の複合領域科目「高年次教養セミナー」の2020年度の開講状況を振り返ったものである。本セミナーは2018年4月に、毎回、様々なテーマのもと、学部を超えた学生がそれぞれの専門的見地により議論を重ね、教養を深めていくことを目的として新規開講した。教養教育の重要性を実感している意欲的な学生が集い、学生と教職員が垣根を超えて自由な雰囲気では様々なテーマについて議論できるため、参加した学生や教職員からは好評を得ている。しかし2020年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、新しい授業形態とコミュニケーション方法を模索しながらの実施となった。

キーワード：高年次、教養教育、学部混成型セミナー、異分野からの学び、学生と教職員の交流

1. はじめに

高年次教養セミナーは、2018年度に全学共通教育の複合領域科目として新設され、2020年には3年目を迎えることができた。その歴史を簡単にさかのぼると、2016年10月からeplus (education planning university student team : 岐阜大学教育企画立案学生チーム) という教養教育の改善を目的に活動する学生組織と教養教育推進部門(当時)が毎月1回金曜日に、学部の枠や学生と教職員という立場を超えて互いに様々なテーマについて議論し、自らの教養を深めていく「Partyゼミ」という学部混成型セミナーを全12回開催したことが始まりである。17時から19時まではサテライトキャンパスで講義と意見交換が行われ、セミナー後は食事会を通して21時頃まで引き続きテーマについて自由な雰囲気でも語り合い、親交を深められる機会にもなっていた。この全12回におよぶ学生と教職員の活動実績により、2018年4月からは全学共通教育の複合領域科目で選択1単位の正式な授業と

学部を超えて集い、議論する高年次教養セミナー

して新規開講する運びとなった。次の表は、これまでの歩みの概要を一覧表にまとめたものである。

表1 party ゼミから高年次教養セミナーの歩み

年月日	概要
2013年12月3日	eplus (education planning university student team : 岐阜大学教育企画立案学生チーム) 発足 ・学部を超えた学生と教職員の対話と協働の場づくり 「全学共通ワークショップ with 教職員」「読書会&ビブリオバトル」「自主ゼミ」「全国学生FDサミットへの参加」「学生おすすめ本展示(岐阜大学図書館と連携)」などを実施
2016年6月22日	教養講演会「森脇学長と教養について語ろう！」 (主催：教育推進・学生支援機構(教養教育推進部門)，共催：eplus)
2016年10月14日	eplus と教養教育推進部門で「Party ゼミ」開始 後学期に4回実施(場所：サテライトキャンパス)
2017年	「Party ゼミ」実施 前学期4回，後学期4回実施(場所：サテライトキャンパス)
2018年4月 [1年目]	正規の授業科目「高年次教養セミナーI・II」(集中・複合領域科目1単位)として新たに開講 前学期5回，後学期5回開講(場所：サテライトキャンパス)
2019年4月 [2年目]	「高年次教養セミナーI・II」開講 前学期5回，後学期5回開講(場所：サテライトキャンパス)
2020年4月 [3年目]	「高年次教養セミナーI・II」開講 前学期5回，後学期5回開講(場所：全学共通教育棟1D教室など) ※コロナ禍のため，前学期3回はオンライン実施

筆者が2019年11月25日に参加したシンポジウム「高年次教養教育の試みとその成果」(主催：早稲田大学大学総合研究センター)によると，近年は研究大学で高年次を対象とした教養教育が徐々に展開されるようになってきているとの報告があった。大学によっては学部3,4年次生や大学院生に高年次教養教育が必修化されている。しかしこれらは教員主導で必修化された授業であるため，ある研究大学では，教員と学生間で，身に付けてほしい(または，身に付けたい)能力と技能に違いが生じているとのことであった。その点，本セミナーは選択科目ではあるが，学生自身が高年次教養教育の必要性を訴え，本学の基盤的能力である「進める力(自立力，行動力)」を養うことを目的に教職員とともに正式な授業として立ち上げに関わった非常に画期的なものであるため，他大学のように教員と学生間における教

育内容に対する認識の違いはない。eplusの発足から始まり、本セミナー開講3年目に至るまで、本学の高年次教養教育は学生とともに歩みを進めてきたといえる。



図1 2020年度高年次教養セミナーのポスター

2. 2020年度高年次教養セミナー I・IIの概要

本学では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、2020年4月13日(月)から5月6日(水)まで一部休業となった。5月7日(木)から授業は開始できたものの、全学共通教育においてはICT(Information and Communication Technology: 情報通信技術)を使った遠隔授業のみの実施となり、対面授業が再開されたのは6月4日(木)からであった。本セミナーにおいても、授業日程や授業場所・形態を大幅に変更し、Web会議システム(ZoomやTeams)を通じて授業を実施せざるを得ない状況となった。授業は、快く予定変更に対応して下さった講師の先生方のおかげで、無事、当初の予定通り前学期と後学期それぞれ5回(全10回)開講することができた。しかし、セミナー後の食事会は、年間を通じて開催せず、自由な雰囲気の中かで学生と教職員が交流を図りながらテーマについて語り合う機会は失われてしまった。2020年度は受講者が少なかったこともあり、授

業はほぼマンツーマンで行われ、授業を通じてのコミュニケーションは密度の濃いものになったと考える。

次の表は、2018年度から2020年度までのPartyゼミと本セミナーの開講時期や授業形態、開催場所・教室を一覧表にまとめたものである。

表2 2018～2021年度Partyゼミ・高年次教養セミナーの開講形式一覧

	2018～2019年度	2020年度
開講時期		
I：前学期	4～7月	6～7月
II：後学期	10～1月または2月	10～1月
授業形態		
I：前学期	講義（対面5回）	講義（オンライン3回，対面2回）
II：後学期	講義（対面5回）	講義（対面5回）
開講場所・教室		
I：前学期	サテライトキャンパス	当初予定：サテライトキャンパス →変更：柳戸キャンパス 1D 教室
II：後学期	サテライトキャンパス	柳戸キャンパス 1D 教室
授業後の相互交流	あり	なし（交流不可）

3. 2020年度前学期を振り返る

2020年前学期は、受講登録者数が2名（内訳：工学部4年生1名，地域科学部4年生1名）で、正規の受講生ではないが、eplusの学生（大学院生）や社会人聴講生が聴講することもあった。また、今回受講登録をした工学部の学生は、2019年度前学期に本セミナーを受講していた先輩から講義の話を聞いて、自分も受講してみたいと思ったことがきっかけになったそうである。次に、2020年度前学期第1回～5回の授業を振り返る。ここでは、担当していただいた講師の所属と敬称は省略する。

①第1回（2020.06.05 オンライン実施）出村嘉史「都市をつくるのは誰か？」

第1回目は4月17日（金）講義予定であったが、6月5日（金）に変更し、対面ではなくZoomでの実施となった。

柳ヶ瀬の活性化が岐阜の活性化につながるとし、商店街で日曜日にサンデービルディングマーケットや中心市街地の道路空間（金華橋通りの3車線）を使いトランジットモールを開催されているお話や岐阜市の都市形成史を詳しく解説していただいた。

②第2回（2020.06.19 オンライン実施）坂本一也「日常生活の出来事を法律の視点で考えてみる」

第2回目は6月17日（金）に変更し、第1回目と同様に Zoom での実施となった。

受講者側から提示された日常生活のあらゆる出来事について、法律の視点で詳しく解説をしていただいた。法律を知って理解することが、ひいては自分の身を守る行動につながることを改めて実感させられた講義であった。

③第3回（2020.07.03 対面実施）志水泰武「人工冬眠への挑戦」→「異分野としての生物学からの学ぶ」

第3回目は7月3日（金）に変更し、柳戸キャンパスの1D教室で、前学期初の対面実施となった。

志水先生は2014～2015年に教養教育推進部門長を務めていた時、本学の学生に専門分野以外の科目を多く履修させる「異分野からの学び」という方針を打ち出された。

今回の講義は、本学の教養教育の理念や学ぶことの意義をお話されたあと、「異分野としての生物学」について、初心者でも理解できる多くの事例を挙げながら解説していただいた。

④第4回（2020.07.10 対面実施）松井真弓「岐阜大学の国際化戦略とデータ分析」

第4回目は7月10日（金）に変更し、図書館1階の会議室での実施となった。

グローバル推進機構で担当されている業務の説明と本学の国際化戦略、データ分析についてお話しがあつた。また、博士号取得の必要性にも触れ、受講生に博士後期課程への進学を勧めるご提案もあつた。

⑤第5回（2020.07.31 オンライン実施）寺田和憲「心はどのようにして作るか」

第5回目は7月31日（金）に変更し、対面ではなく Teams での実施となった。

認知科学で心は「意図、信念、願望」を表すとされ、様々な事例をもとに「心はどのようにして作られるか」についていくつかの事例をもとに詳しく解説していただいた。

4. 2020年度後学期を振り返る

2020年後学期は、受講登録者数が1名（内訳：工学部4年生1名）であった。前学期と同様、eplusの学生（大学院生）が聴講することもあつた。工学部の学生は年間通じての受講で、本セミナー開始以来、初のこととなった。本人にその理由を確認したところ、当初から前学期か後学期どちらかの受講という考えはなく、年間を通じて受講したかったとのことであつた。この学生は年間を通じて1回も授業を欠席せず、毎回意欲的に参加していた。次に、2020年度後学期第1回～5回の授業を振り返る。ここでも、担当していただいた講師の所属と敬称は省略する。

①第1回（2020.10.09 対面実施）林日佳里「現代アメリカの“理系”小説」

第1回目は10月9日（金）に、柳戸キャンパスの1D教室での実施となった。

理系の学生でも興味を持って小説に触れられるよう、現代アメリカの“理系”小説をいくつか紹介してくださった。今回の講義では、C・P・スノー『二つの文化と科学革命』などの作品の一部を精読するという新鮮な体験を通じて、理系文化と文系文化について改めて考える貴重な機会を得ることができていた。受講生の学生は講義で紹介された『フランケンシュタイン』に興味を持ち、翌日には購入して読み始めたとのことであった。

②第2回（2020.11.06 対面実施）清島絵利子「接客言語行動からコミュニケーションを考える」

第2回目は11月6日（金）に、柳戸キャンパスの1D教室での実施となった。

個人情報保護法施行前に、大阪府堺市の個人経営店舗の喫茶店を対象に実施した、接客言語行動調査についての話題提供があった。関西在住の若年層（10～30代）、中年層（40～50代）、老年層（60～70代）の接客言語行動の事例から、自分自身のコミュニケーションを振り返り、それぞれの地域におけるコミュニケーションの特徴について考える機会となった。

③第3回（2020.12.16 対面実施）田中伸「学校の勉強は社会とつながっているのか？」

第3回目は12月16日（金）に、柳戸キャンパスの1D教室での実施となった。

田中先生の講義には、教育学部の2年生2名から聴講希望の申し出があった。このようなケースははじめてだったが、田中先生にはご快諾をいただいた。事前に、受講者を含めた3名には「音楽の歌詞にみられる社会的なメッセージを読み解く」という課題が出された。3名は、自分が好きな歌を題材に、楽しみながら歌詞に込められた意味を読み取ることができたようである。当日は主権者意識や市民性教育などの講義のあと、各自パワーポイント等でプレゼンを行いながら、参加者全員でさらに歌詞に込められた社会的なメッセージを読み解いていった。



図2 プレゼンをする学生

④第4回 (2021.01.08 対面実施) 福士秀人「ウイルスってなんだろう」

第4回目は1月8日(金)に、柳戸キャンパスの1D教室での実施となった。

岐阜県で発生する豚コレラの防疫措置作業等に尽力されていらっしゃるお話や新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生のメカニズムなど、興味深く解説をしていただいた。

④第5回 (2021.01.29 対面実施) 柴田奈緒美「伝熱メカニズムから調理を読み解く」

2020年度の最後を締めくくる第5回目は、1月8日(金)にアカデミック・コアの教室で実施となった。

ゆで卵の調理やハンバーグを焼くときの伝熱メカニズムの解説を受け、科学の知識をもとに効率的に料理を作る方法を教えていただいた。柴田先生が講義の最後におっしゃった「調理には科学、料理には愛が必要」ということばは、非常に心に響くものであった。

5. Partyゼミ・高年次教養セミナーで開講された講義

2016年から2017年度に開催されていたPartyゼミと2019年から新規開講となった本セミナーにおいて講義をしていただいた先生方はのべ42名である。次にその先生方の氏名と講義テーマ名の一覧表を順に示す(講師氏名の敬称略)。2019年度前学期第1回目には、森脇久隆学長が講義をされ、授業後には学生とともに交流を深めて、本セミナーの意義や教養教育の必要性を伝えてくださった。学生は、学長を身近な存在として感じ、本セミナーを受講した価値があったと非常に喜んでいた。

Partyゼミ (2016.10.14~2018.01.19) 講師・テーマ一覧

表3 Partyゼミ 講師名・テーマ一覧表

開催回	講義年月日	講師氏名	所属部局	テーマ
第1回	2016.10.14	廣内 大輔	教育推進・学生支援機構	大学について語ろう
第2回	2016.11.11	櫻田 修	工学部 化学・生命工学科	大学の環境への取り組みから考えよう
第3回	2016.12.09	前澤 重禮	応用生物科学部 応用生命科学課程 食品生命科学コース	岐阜の食を楽しもう
第4回	2017.01.06	野村 幸弘	教育学部 美術教育講座	芸術がわかる、ってどういうこと？
第5回	2017.04.21	橋本 永貢子	地域科学部 地域文化学科 地域文化講座	そのウソって許されるの??
第6回	2017.05.19	須藤 広志	工学部 電気電子・情報工学科 応用物理コース	科学衛星ミッションについて考えよう
第7回	2017.06.16	正木 寛	岐阜大学学務部教務課 全学共通教育事務局 全学教育係	昔の岐大って知ってる？ ～岐大と親しみ半世紀、岐大の今昔を語ろう～
第8回	2017.07.21	川瀬 真弓	自然科学技術研究科	デザイン思考のすすめ
第9回	2017.10.27	纈纈 守	工学部 化学・生命工学科 物質化学コース	化学の基礎知識を理解してかきこい日常生活を送ろう
第10回	2017.11.17	松林 康博	地域協学センター	NPO法人で、働いて、どういうこと？ ～ゼロから分かるNPO法人～
第11回	2017.12.15	矢部 富雄	応用生物科学部 応用生命科学課程 食品生命科学コース	炭水化物(糖質)は体に悪いのか？
第12回	2018.01.19	桑田 一夫	連合創薬医療情報研究科 医療情報学専攻	病を治す方法を開発しよう。

高年次教養セミナー1年目（2018年度）

表4 高年次教養セミナー1年目（2018年度） 講師・テーマ一覧表

開催回	講義年月日	講師氏名	所属部局	テーマ
第1回	2018.04.27	矢部 富雄	応用生物科学部 応用生命科学課程 食品生命科学コース	炭水化物（糖質）は体に悪いのか？
第2回	2018.05.25	横川 隆志	工学部 化学・生命工学科 生命化学コース	タンパク質ができるまで
第3回	2018.06.08	菊地 聡	工学部 機械工学科 機械コース	自動車のまわりの空気の流れを見よう ～乗り物の空気抵抗と省エネに関して～
第4回	2018.06.22	尹 己烈	工学部 電気電子・情報工学科 電気電子コース	自分の道は自分で切り開け
第5回	2018.07.20	山口 未花子	地域科学部	人は動物と話すことができるのか
第1回	2018.10.19	林 正子	地域科学部 地域文化学科 地域文化講座	文学で楽しむ岐阜の魅力
第2回	2018.11.16	佐々木 実	工学部 機械工学科 知能機械コース	AI、ロボットにできること、できないこと —過去、現在、未来？—
第3回	2018.12.14	堀田 亮	保健管理センター	サッカーを心理学で読み解く
第4回	2019.01.11	小山 真紀	流域圏科学研究センター	やれと言われてもできるわけでないのが防災
第5回	2019.02.01	デイビッド・ バーカー	教育学部 英語教育講座	外国人に言っちゃいけないこと

高年次教養セミナー2年目（2019年度）

表5 高年次教養セミナー2年目（2019年度） 講師・テーマ一覧表

開催回	講義年月日	講師氏名	所属部局	テーマ
第1回	2019.04.19	森脇 久隆	岐阜大学	日本人の健康とがん
第2回	2019.05.24	小川 陽子	教育学部 国語教育講座	〈作者〉とは？誰が作品を作るのか？ —『源氏物語』から考える
第3回	2019.06.07	國貞 隆弘	医学系研究科 組織・器官形成分野	幹細胞と遺伝子編集は人類の未来をどう変えるか
第4回	2019.06.21	小嶋 智	工学部 社会基盤工学科 防災コース	世界の山脈はどのように造られ どのように壊れていくのか
第5回	2019.07.26	西尾 洋	教育学部 音楽教育講座	音楽で考える束縛と自由
第1回	2019.10.11	高木 朗義	工学部 社会基盤工学科 環境コース	防災・減災を「わかる」から「できる」へ
第2回	2019.11.15	中川 寅	応用生物化学部 応用生命科学課程 分子生命科学コース	動画で見る細胞の世界
第3回	2019.12.13	白村 直也	教育推進・学生支援機構	彷徨う夢の行き先は —ロシア革命100+2周年を振り返る—
第4回	2020.01.10	村井 利昭	工学部 化学・生命工学科 生命科学コース	分子が拓く世界
第5回	2020.01.24	立石 直子	地域科学部 地域政策学科 地域政策講座	親子とは何か —法律から親子関係を考える

高年次教養セミナー3年目（2020年度）

表6 高年次教養セミナー3年目（2020年度）講師・テーマ一覧

開催回	講義年月日	講師氏名	所属部局	テーマ
第1回	2020.06.05	出村 嘉史	工学部 社会基盤工学科 環境コース	都市をつくるのは誰か？
第2回	2020.06.19	坂本 一也	教育学部 社会科教育（法経）	日常生活の出来事を法律の視点で考えてみる
第3回	2020.07.03	志水 泰武	応用生物科学部 共同獣医学科	人工冬眠への挑戦
第4回	2020.07.10	松井 真弓	グローバル推進機構	岐阜大学の国際化戦略とデータ分析
第5回	2020.07.31	寺田 和憲	工学部 電気電子・情報工学科 情報コース	心はどのようにして作るか
第1回	2020.10.09	林 日佳里	教育学部 英語教育講座	現代アメリカの“理系”小説
第2回	2020.11.06	清島 絵利子	教育推進・学生支援機構	接客言語行動からコミュニケーションを考える
第3回	2020.12.16	田中 伸	教育学部 社会科教育（法経）	学校の勉強は社会とつながっているのか？
第4回	2021.01.08	福士 秀人	応用生物科学部 共同獣医学科	ウイルスってなんだろう
第5回	2021.01.29	柴田 奈緒美	教育学部 家政教育講座	伝熱メカニズムから調理を読み解く

6. 今後の展望

本セミナーは、2020年度に開講3年目を迎えることができた。ひとえに、学長をはじめとする様々な専門分野の先生方が快く講義を引き受けてくださった賜物で、総合大学というメリットを最大限に活用している結果ともいえる。

しかし、開講当初から受講者数の伸び悩みという課題がある。2018年度からの受講登録者数は、前学期と後学期ともに2～4名で、定員の20名に達したことがない。これまでの受講登録者は、高年次で教養教育の必要性を実感している意識の高い学生が多く、教員を圧倒するような知識でディスカッションをする学生も見られた。2019年後学期に受講した学生に本セミナーを受講した感想を直接聞いてみたところ、「講義の後に先生と学生で食事とともにして、気軽に議論ができるとは思っていなかった。先生と学生の距離がとても近いので、受講してよかった」と話してくれたことが印象的であった。本セミナーをコーディネートする筆者としては、できる限り多くの学生に、様々な分野の教養を学ぶ機会を提供したいと望んでいる。しかし、「少数精鋭、教員と学生との距離が近い、自由に話せる雰囲気がある」ことを重視するならば、10名前後の人数が妥当であるとも考える。

7. 付記

他大学には類を見ない本セミナーは、eplusの学生や2016～2019年度に教養教育推進部門長を務めていた野村幸弘先生をはじめとする多くの教職員の方々の教養教育に対する熱い思いや尽力がなければ、現在まで継続し、発展することができなかった。

開講3年目を迎えた現在、本学には、高年次教養教育の必要性を痛感している先生方が多くいらっしゃり、快く講義を引き受けていただける環境になった。ここに記して厚く感謝申し上げます。

今回は、本セミナーの3年間の歩みの概要と2020年度の実践報告を記すにとどまり、他大学の高年次教養教育の現状については詳細に触れることができなかった。そのため次回以降の課題にするとともに、他大学の高年次教養教育とのさらなる差別化を図り、学生や教職員にとって魅力的なセミナーになるよう今後も尽力していきたい。

【参考文献】

岐阜大学教育推進・学生支援機構（2018）『高年次教養セミナー開講に向けて』岐阜大学教育推進・学生支援機構 野村幸弘責任編集

早稲田大学大学総合センター主催シンポジウム「高年次教養教育の試みと成果」（2019年11月25日（月）開催）における配布資料

eplus（education planning university student team：岐阜大学教育企画立案学生チーム）が作成した資料一式 堀山英杜氏より提供